

吉澤 繁 氏

(高校36回卒)

小田原市立病院 消化器内科担当部長



<経歴>

- 1993 年 4 月 北里大学医学部卒業
- 1993 年 5 月 北里大学病院 内科研修医（消化器内科入局）
- 1995 年 4 月 立川共済病院消化器内科出向
- 1997 年 7 月 北里大学東病院消化器内科病棟医
- 1999 年 4 月 東芝林間病院消化器内科出向
- 2000 年 4 月 北里大学東病院消化器内科 研究員
- 2006 年 10 月 学位取得：Clinical usefulness of EUS for active ulcerative colitis.
- 2005 年 4 月 小田原市立病院消化器内科

<これまでの主な活動内容や心に残る職務上のエピソード>

今までに多くの方にお世話になりました。いつも応援してくれた両親、大学時代に切磋琢磨しあった友人、就職後に様々なことを丁寧に厳しく指導していただいた複数の上司など多くの人々に心より感謝しています。大学卒業後は消化器内科に入局し、病棟レジデントを経て卒後6年目に下部消化管グループに所属しました。その後、5年間大学病院で研究員として消化管出血や炎症性腸疾患などの勉強をさせていただきました。この間に様々な学会発表や論文作成などを経験させていただいたことも貴重な財産です。2005年以降は小田原市立病院で多くの優秀なスタッフに支えられながら診療に従事しています。

<学位、資格等>

学位：Clinical usefulness of EUS for active ulcerative colitis.

[活動性潰瘍性大腸炎に対する超音波内視鏡の臨床的有用性について](2006)

資格：日本内科学会認定内科医(1999)・総合内科専門医(2000)、日本消化器病学会指導医・専門医(2000)、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医(2001)、日本医師会認定産業医

<高校時代はどんな学生だった？>

父が旧制小田原中学出身であり、旧制中学に憧れて高校に入学しました。高校時代はたいしたことできませんでしたが、高校1年時の生物の大類先生の話は印象深く覚えています。先生は「人間は高等動物であるといわれるが、他の生物も高度な能力や知能を持っている可能性がある。既成概念にとらわれずに真実を探究する姿勢が大切である」とおっしゃっていました。最近、鳥類は高高度の低酸素下でも活動でき、老化やメタボもなく死ぬ直前まで活潑に行動でき、人間よりも優れた機能を持っていると報告され話題になりました。当時の大類先生の見識の高さをあらためて実感しました。医学分野でも既成概念にとらわれず、新たな知見を取り入れて真実を探究していきたいと思います。

数年前より校史展示室の様々な企画展を拝見し、改めて先輩方から学ぶべきことは多いと実感します。また、先輩の仮野先生にいただいた校訓のはがきを職場内のロッカー内に貼り付けて毎日眺めています。医療現場では厳しい場面に遭遇することもあります。校訓の「至誠」を持って真心をこめて対応することや「堅忍」の心でヤマ場を乗り越えていくことは大切なことです。これからも校訓を大切にして日々の診療にあたりたいと思います。

<在校生・卒業生（後輩）へのメッセージ>

医療は一人では行えず、さまざまな分野のスタッフと協力しながら日々の診療を行っています。私の専門は消化器内科です。食事摂取が困難な方に遭遇することが多いですが、嚥下や免疫機能維持の面からも早期に食事を再開できるように努力しています。また、重症化後の治療は困難になる場合が多く、早期に適切な治療強化が行えるように心がけています。微力ながら少しでも地域医療に貢献できるように努力していきたいと思います。

「良書は良友なり」は昨年逝去した母の口癖でした。古典哲学などからも学ぶべきことは多いです。ビジネス誌に「1000冊読書すると人生観が変わる」とあり、数年前に約6年かけて再読も含め1000冊読んでみました。風のようにエッセンスのみを読んだものも多いですが、人生観が大きく変わりました。皆さんも時間があれば図書館を利用し、読書ノートも作って読書を通じてさまざまな世界に触れてみてください。



大学6年時、友人の陳君と（本人左）



立川病院出向時、上司の伊藤先生（左）と（本人右）



大学病院研究員でニューヨークでの国際学会でポスター発表時上司の小林先生（右）と（本人左）